



桃一通信

No. 6 6 9

桃井第一小学校
(3390)3178(代)

令和4年 11月号



主体的・対話的で深い学び

校長 高橋 浩平

10月のモモリンピックのご参観、どうもありがとうございました。2学年ずつの3種目のモモリンピックで、以前のモモリンピックにまた一步近付いた感じがしました。コロナの感染状況にもよりますが、来年度はさらに以前の形にできるようにしていきたいですね。

さて、桃一小的学校経営の柱の一つに「学力向上」があります。この学力は、テストの結果、というだけではなく、広い意味での「学び」も含んでいます。国が定めた学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」ということが示されています。一時期「アクティブ・ラーニング」ということばが流行していました。これはもともと大学教育の改善から提唱されたことですが、一方的に講義を聴くだけでは学習定着率は5%程度しかないけれども、友達と相談したり教え合ったりすると学習定着率は高まっていく、というところから、そうした能動的な学習を「アクティブ・ラーニング」と呼んだわけです。その「アクティブ・ラーニング」が学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」という名称になりました。この中身は次のように説明されています。

○主体的な学び…学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる。

○対話的な学び…子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める。

○深い学び…習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を

働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情緒を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう。

なかなか難しそうに聞こえる説明ですが、端的に言えば、○自分から進んで○友達や地域の人たち、あるいは書籍などから○心が動かされる学習をする、ということではないか、と思います。

また、私たち教員からすれば、「子どもたちの心が動く」、そういう学習を進めていかなければなりません。「授業がつまらない」と子どもたちに言われると、まだまだ改善の余地があるんだろうと率直に思います。「子どもたちの心が動く楽しい学習」を作っていくために、タブレットをはじめとして、ICTを活用していくこと、学校図書館を充実させること、地域や保護者の方々の支援・協力をいただきながら授業を進めていく等、やることはできるだけ積極的に取り組んでいくことが重要だと思っています。

これからは「そろえる」教育から「伸ばす」教育への転換が求められている、と言われていきます。従来の一斉指導や平均点主義等は見直されなければならない、という話もききます。また、子どもたち一人一人の「多様な幸せ」を実現することが大切だとも指摘されています。杉並区の教育ビジョン2022のスローガン「みんなのしあわせを創る杉並の教育」を押さえながら、桃一小での「主体的・対話的で深い学び」を進めていきたいと思っています。

11月の生活目標「物を大切にしよう」

11月の生活目標は「物を大切にしよう」です。物を大切にするという気持ちは、名前を書くことから始まります。万が一落したり、なくしたりしてしまっても、名前が書いてあればだれかが届けてあげることができます。改めてお子さんの持ち物 1 つ 1 つに名前が書いてあるか、一緒に確認してみてください。



自分の物を大切にできる人は、みんなで使う物も大切に使い、扱うことができます。また、学校の物もきまりを守って正しい使い方を使用している姿は、とても立派です。お家でも物の扱いについて話していただければと思います。

★遅刻や忘れ物を取りに来る場合について★

学校に遅刻する場合、放課後忘れ物を取りに来る場合には、必ず保護者の付き添いが必要です。学校の北門から入り、必ず教室まで引き渡ししていただくようお願いします。

What is ももいち教室

西校舎の2階にある「ももいち教室」は特別支援教室です。「ももいち教室」は何をするところか、ご存じですか。「ももいち教室」は、少人数での活動を通して、一人ひとりの子供が、安心して学校生活を送れるようにしたり、自分に適した学習方法を見付けたりするところです。苦手なことをできるようにする、という観点からだけではなく、どうすればできるか、周りの環境調整をどのようにすればいいのかなどを考え、学級での支援につなげられるようにしています。

自分の考えを伝えることが苦手な児童に対しては、発言の練習を積み重ねるだけではなく、事前にどのような準備をすればよいのか、どのような質問なら答えやすいのかなど、個性に合わせたアイデアを考えています。学級での様子を担任とも共有しながら、一人ひとりの成長をサポートしています。

お子様の生活や学習の様子で気になることがありましたら、いつでもご相談ください。

(特別支援教室専門員 特別支援教育コーディネーター)





笑顔が満ちる モモインピック147

新型コロナウイルス感染予防対策により縮小していた運動会が感染状況緩和に伴い、種目数を増やし、2 学年開催となりました。

短い練習期間の中でも充実した時間を過ごした子供たち。本番でもはつらつとした表情、全力を尽くす姿を披露し、多くの人に笑顔を届けました。どの子供たちも学年のために、クラスのために、自分のために頑張った経験が豊かな成長のきっかけになったことと思います。

今年度も変更点が多くありましたが、本番まで、保護者・地域の皆様にはたくさんのご協力とご理解をいただきました。本当にありがとうございました。



各学年の取り組み

1年生

生活科の「あきとなかよし」の学習を通して、季節の変化を感じ、秋を楽しみながら味わえる活動に取り組んでいます。10月13日(木)の生活科見学では、ネイチャーゲームをしました。ゲームを楽しむ中で、ドングリの種類や名前を学びました。フィールドビンゴでは、きのこを見つけたり、鳥の声に耳をすませたりして、秋を探しました。教室では、ヨウシュヤマゴボウの実を使った色水遊びや染め物を楽しみました。諸感覚を使うことで、子供たちの感じる力を育んでいきます。

2年生

2年生は、生活科で「わたしの町はっけん」の学習をしています。クラスみんなで行った町探検では、桃一小的の周りにはたくさんのお店や施設があることを「はっけん！」し、そこで働いている人たちがいることを「はっけん！」しました。「もっと知りたい！」という気持ちが出てきたので、改めて、お店や施設の方へインタビューさせていただきました。そこでも、たくさんの仕事の工夫を「はっけん！」しました。たくさんの方見を通して、自分たちの住んでいる町のよさを見つめ直すことができました。

3年生

社会科の「ちいきの安全を守る」の学習で、荻窪消防署を見学しました。日頃、見ることのできない消防署内を見学しました。はしご車が一番高く上がる様子を見て、子供たちは驚いていました。また、防火衣の重さや消火の際に使うホースの長さなど実際に行き見て分かったことがたくさんありました。

伝統文化を学びました。3年生は、井草囃子保存会の皆様から、井草囃子を教わりました。子供たちは、楽しそうに演奏していました。

4年生

総合的な学習の時間で、「環境について考える」をテーマに、学習を行っています。これまでの社会科で「ごみの処理」や「水道の仕組み」、「水害」に関する学習で環境について触れました。また、1学期に実施した「ヤゴ救出大作戦」で身の回りの環境にも興味をもちました。そこからの疑問を通して、自分が調べたいテーマについて調べています。現在、資料を作成し、学級内での発表に向けて頑張っています。

5年生

防災館見学に向けて、社会科「自然災害を防ぐ」の学習をしました。自然災害と国土との関わりや、自治体の防災の取り組みを調べました。学習の終わりには、地震、津波、風水害、火山や大雪による被害などから自分でテーマを決めて、プレゼンテーションソフトでまとめました。防災館見学では、煙体験、消火訓練、応急救護訓練等を体験し、いざというときの対応方法を実践的に学び、防災に対する意識を高めることができました。

6年生

社会科の歴史の学習を深めるため、茶道体験・百人一首体験を行いました。授業では文化の特徴について事前に調べていましたが、体験を通してより理解を深めることができました。事後学習では、今に伝わる文化にはどんな良さがあるのかを体験レポートに書きました。体験レポートの内容について友達と意見を交流することで、歴史の学習についての関心を広げることができました。

